

聲明書

東電従業員諸君

狂暴化する資本の攻勢と産業合理化の名の下に資本階級は尚より多く搾取せしめ
 労働時間の延長或は賃銀値下げに起る敵首 是等に對する不安と階級的
 立場に吾々従業員は累に同電労働組合に加入し専ら其の指導下の二人に勇敢なる斗
 争を続け来たりしあり

然るに組合最高幹部は客觀的状況を重視し殊に本電一般大衆の階級的意識水準を
 認識せず自ら高次の理論を振り廻し合法的存在を許さざるを以て新電連帯会を支持し
 一般大衆の周知せざる度況なる對外運動を存し最近に於て旧評議會の更生を謀るべ
 く單労働組合を解散命令の提唱を爲す

本電一般大衆に謀らざる幹部專制の下に甚策徒らに支配階級に口述を受ける
 ものは唯彈圧のみある七月十二日伊藤仲西君の解雇に端を發し亦未幾多の交
 渉黙し空しく停止し「サボ」し漸く「ストライキ」に入らんとするに尚一般大衆は
 「ストライキ」の意志さへもなきに係らず幹部は執拗にこれを強平地方一般
 社会には誇大なる宣傳をなし社会一般に恐怖と不安を興へ為此に官憲の彈
 圧はますます猛烈となり 今や如何ともしする事も出来ず 之れを以て終て放任して置く